家 庭 科 部 会

研究主題　**自分の思いや考えをもち，よりよい生活を目指していける子どもを育てる指導**

1　主題について

自分の思いは，家族との関わりなしでは考えることはできない。家庭生活をよりよくするためには，生活への関心を高めることが必要である。これらを踏まえ，子どもたちが自分の家庭生活をよりよくしようと意欲を高め，実感を伴った学習を進められるように本主題を設定した。

2　今年度の取組

月　　日	実　践　内　容	月　　日	実　践　内　容
４月１３日	第１回総合研究会 研究主題確認・年間計画作成	９月１５日	指導案検討会 （城西小学校）
８月　９日	夏期実技研修会 （城西小学校）	１０月２５日	第２回総合研究会 授業研究会（城西小学校）

3　研究内容

⑴　夏期実技研修会

・期　日　平成２３年８月９日（火）　　・会　場　城西小学校
・研修内容　「お米のアレンジ料理法～米粉を使って～」
・講　師　阿部　恭子先生（城西地区学校給食センター学校栄養士）

今回は，米の学習の発展として指導することを意識した米の調理を実技研修で行った。米粉を使用し簡単にできる料理として「米粉ピザ」「米粉の杏仁豆腐」の二品を指導していただいた。

大北会員３名を含む９名が参加し，２班に分かれて阿部先生の説明を交えながら調理した。米粉を使用したパンを給食で食べた経験はあったが，自分で調理することは初めての経験であった。意外にも扱い方は簡単で，できあがりはモチッとした食感があり，味も好評であった。授業実践の大きなヒントとなった研修であった。

【米粉ピザと米粉杏仁豆腐】

⑵　授業研究

・期　日　平成２３年１０月２５日（火）　　・会　場　城西小学校
・題材名　５年「元気な毎日と食べ物」　　・授業者　教諭　渡辺　智一

①　授業者から

・児童の給食の残食が多く家庭環境の差もある実態から，将来の自立へのステップとして本題材を位置付けて考えた。
・指導内容が，６年生の内容と重なっていた点が迷ったところであるが，先生方のアドバイスで授業研究を進めてきた。

・本時は，実践的な活動として楽しんで学ぶことができたと思っている。グループ活動は活発で盛り上がっていたが，個の見届けが不十分であったという反省点も残った。よりよい活動のさせ方はどうあればよいか教えていただきたい。

② 協　議

・教師が２つの献立を示し，比較する視点を与えていたところがよい。
・指令書をもとに料理カードを選びながら献立を考えるという「献立の条件」を大切にした楽しく主体的な学習となっていた。
・料理を選びすぎた児童に対して，班でのアドバイスの活動が生かされて修正できた児童が多かった。
・プレゼンソフトを活用し，特別支援的な配慮がなされ，学習効果を上げていた。

【献立カードを選ぶ児童】

・料理カードの準備や場の工夫など，ねらいにせまるさまざまな手立てがあった。参考にしていきたい。
・作った献立カードを家庭に持ち帰らせ，家族に見てもらうこともよい。
・今後は，小さな工夫を認めたり紹介したりするなど意欲や関心を高めていくとよいのではないか。

⑶ 指導助言（八代　英樹　指導主事）

・レストラン形式にした場の設定，バイキング形式のカードの工夫など，教材・教具が工夫されており，パソコンのプレゼンソフトを活用した指示やまとめも効果的であった。
・１食分の献立を考える学習は、作る側の立場でおかずとなる料理を考えるのだが、これは調理実習等を数多く行ってからの６年生段階がふさわしい。本時の活動は料理を選ぶという食べる側の視点での活動になっているので、５年生に合った内容になっている。
・導入部分では，品数の異なるAさん，Bさんの二つの献立を示したが，「栄養のバランス」を視点に課題をもたせるのであれば，品数や量をそろえて提示するべきである。
・これまでの食育指導等を踏まえた学習が大切である。家庭科においては必要以上に深入りしたり広めたりするのではなく，学年に応じて確実に知識を身に付けさせるようにしたい。
・献立のカードを家庭に持ち帰って，家族にぜひ見せてほしい。学習したことを家庭生活に反映させるための家庭との連携は，県の指針（パンフレット版）家庭科の中にも記載されており，関連した活動が行われていることに感謝したい。

４　成果と課題

⑴ 成　果

・料理カードを選ぶ疑似体験を伴った活動は，児童の有用感，実践力を育む体験に繋がっていくことを確認できた。
・また，教材・教具の工夫・活動の工夫により主体的な学びが生み出され，思考しながら問題解決に向かう学習の流れが作り出されることを共通理解した。

⑵ 課　題

・児童の家庭環境の違いを教師が十分配慮し，児童の関心や実践力を高めるための家庭との連携の在り方を考えていかなければならない。